

## 福井大学メディカルラリー

事業責任者： 林 智美（福井大学医学部附属病院 救急部 看護師）

代表学生： 清川 拓真（医学部医学科 4年）

概 要
<p>メディカルラリーとは、医療チームが特殊メイクを施した模擬患者を診察して、限られた時間内にどれくらい的確に診断と治療を実施することができるかを競う技能コンテストのことをいう。もともとは、救急救命士や医師、看護師などがチームを組み、病院の外で起こった事故などに対し、適切な救急医療を提供できるかを競うものであった。当院では、それを院内急変事例に置き換え、院内の病室などでの急変対応を競うことで、起こりうる急変対応のスキルアップおよび突発的な出来事に対する対応能力向上につながることを目的に実施した。</p>
<b>関連キーワード</b> メディカルラリー 急変時対応 模擬患者 技能コンテスト スキルアップ

## 事業の背景および目的

福井大学メディカルラリーは、平成21年度から「院内メディカルラリー」として、医師と看護師でチームを組み、「楽しく学ぶ」をコンセプトに、模擬患者の診察や処置を通じて知識と技術を競う実践研修としてスタートした。平成28年度より、福井県医療の職場づくり支援センター事業の一環として、福井県内の医療施設からの参加募集もおこない「福井大学メディカルラリー」に発展し、福井県の救急医療の質向上に向けた取り組みとなっている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症流行により、本事業の開催はかなわなかったが、令和3年度より院内患者急変時における医療者の対応能力の向上、多職種の役割分担・連携を目的に「福井大学メディカルラリー」として再開している。

## 事業の内容および成果

## 【開催日時】

令和4年11月3日（祝/木） 9:00～16:00

## 【開催場所】

白翁会ホール・福井大学メディカルシミュレーションセンター

## 【参加者】

午前の部：8病棟（医師 8名、看護師 24名）

午後の部：8病棟（医師 8名、看護師 24名）/合計64名

## 【スタッフ】

医師6名、看護師12名、協力者6名（看護師長、専門・認定看護師、教育担当等）

福井大学 ACLS サークル ALFA 学生 16名

## 【ブース紹介】

救急、急変前徴候、災害、感染

## 【優勝チーム】

午前の部：北病棟5階 午後の部：集中治療部

## 【成果】

本事業が急変時に役立つものかを尋ねたところ、「大変役立つ」「やや役立つ」の回答が100%であった。

また、事前の学習時間について尋ねたところ、最短20分、最長10時間と答えており、平均で180分となった。メディカルラリー当日だけでなく、研修に臨む時点から学習のきっかけとなり、知識の習得、チーム力のアップにつながったと実感している参加者が多かった。参加者の意見には「事前の予習や練習してきたことを病棟でも活かしていきたい。本番できなかったことや後悔していることを実際にすることがないように、復習してこれからは備えていきたい。病棟であまり経験することがなかったため、今回チームの4人で考えながら動いてみてコミュニケーションの大切さや急変時の異常に早く気付くことの重要性を再確認できた」とあった。

アンケート結果より、本事業は①急変時に役立つものとなった、②急変時対応の知識・スキルの習得、チーム力アップにつながったと考えられる。

また、本事業にご協力いただいた福井大学医学部 ALFA（ACLS サークル）の学生の意見として、「急変時の動きについて理解でき、楽しく学ぶことができた。来年も是非参加したい」との、ポジティブな意見が多く聞かれた。福井大学医学部学生への教育にもつながったと考える。



## 参考文献・添付資料および特記事項等

特記事項なし

# 事業名称: 福井大学メディカルラリー

事業責任者: 林 智美 (福井大学医学部附属病院 救急部 看護師)

代表学生 : 清川 拓真 (医学部医学科 4年)

## 概要

メディカルラリーとは、医療チームが特殊メイクを施した模擬患者を診察して、限られた時間内にどれくらい的確に診断と治療を実施することができるかを競う技能コンテストのことをいう。もともとは、救急救命士や医師、看護師などがチームを組み、病院の外で起こった事故などに対し、適切な救急医療を提供できるかを競うものであった。当院では、それを院内急変事例に置き換え、院内の病室などでの急変対応を競うことで、起こりうる急変対応のスキルアップおよび突発的な出来事に対する対応能力向上につながることを目的に実施した。

## 関連キーワード

メディカルラリー 急変時対応 模擬患者 技能コンテスト スキルアップ

## 事業の背景および目的

福井大学メディカルラリーは、平成21年度から「院内メディカルラリー」として、医師と看護師でチームを組み、「楽しく学ぶ」をコンセプトに、模擬患者の診察や処置を通じて知識と技術を競う実践研修としてスタートした。平成28年度より、福井県医療の職場づくり支援センター事業の一環として、福井県内の医療施設からの参加募集もおこない「福井大学メディカルラリー」に発展し、福井県の救急医療の質向上に向けた取り組みとなっている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症流行により、本事業の開催はかなわなかったが、令和3年度より院内患者急変時における医療者の対応能力の向上、多職種役割分担・連携を目的に「福井大学メディカルラリー」として再開している。

## 事業の内容および成果

### 【開催日時・場所】

令和4年11月3日(祝/木) 9:00~16:00

白翁会ホール・福井大学メディカルシミュレーションセンター

### 【参加者】

午前の部: 8病棟 (医師 8名、看護師 24名)

午後の部: 8病棟 (医師 8名、看護師 24名)/合計64名

### 【スタッフ】

医師6名、看護師12名、協力者6名(看護師長、専門・認定看護師、教育担当)

福井大学ACLSサークルALFA学生16名

### 【ブース紹介】

救急、急変前徴候、災害、感染

### 【成果】

本事業が急変時に役立つものかを尋ねたところ、「大変役立つ」「やや役立つ」の回答が100%であった。また、事前の学習時間について尋ねたところ、最短20分、最長10時間と答えており、平均で180分となった。メディカルラリー当日だけでなく、研修に臨む時点からの学習につながり、知識の習得、チーム力のアップにつながったと実感している参加者が多かった。参加者の意見には「事前の予習や練習してきたことを病棟でも活かしていきたい。本番でできなかった内容や後悔している内容を復習し、今後に備えていきたい。病棟であまり経験することがなかったため、今回チームの4人で考えながら動いてみてコミュニケーションの大切さや急変時の異常に早く気付くことの重要さを再確認できた」とあった。

アンケート結果より、本事業は①急変時に役立つものとなった、②急変時対応の知識・スキルの習得、チーム力アップにつながったと考えられる。

## 救急ブース



## 急変前徴候ブース



## 感染ブース



## 災害ブース

